

2019年6月28日
株式会社みずほ銀行

社会課題解決に向けたベンチャー支援・育成インフラとしての 日本インパクト投資2号ファンドへの参画について

株式会社みずほ銀行（頭取：藤原 弘治、以下「みずほ銀行」）は、新生銀行グループの新生企業投資株式会社（代表取締役社長：松原 一平、以下「新生企業投資」）が出資する新生インパクト投資株式会社（代表取締役：黄（尾崎） 春梅、高塚（宮部） 清佳、以下「新生インパクト」）、一般財団法人社会的投資推進財団（代表理事：青柳 光昌、以下「SIIF」）が、2019年6月28日付で設立した「日本インパクト投資2号ファンド」（以下「本ファンド」）へ参画します。なお、本ファンドは22億円にてファーストクローズが完了しています。

みずほ銀行、新生インパクト、SIIFの3社は、このたび、日本が「世界で最大の社会課題解決型経済国」となるための一歩として、リスクマネーが産業変革・社会変革の分野へ流入する仕組みとしてのインパクト投資の普及を目指して、「インパクト投資家の増加とノウハウの共有による、日本におけるインパクト投資のエコシステム構築」ならびに「経済的なリターンと社会課題解決（社会的なリターン）との両立」という本ファンドが掲げる社会的意義に共鳴し、ファンドを通じてベンチャー企業の支援・育成の新たなエコシステムを構築し、世の中へインパクトをもたらす産業・事業の創出支援を開始します。

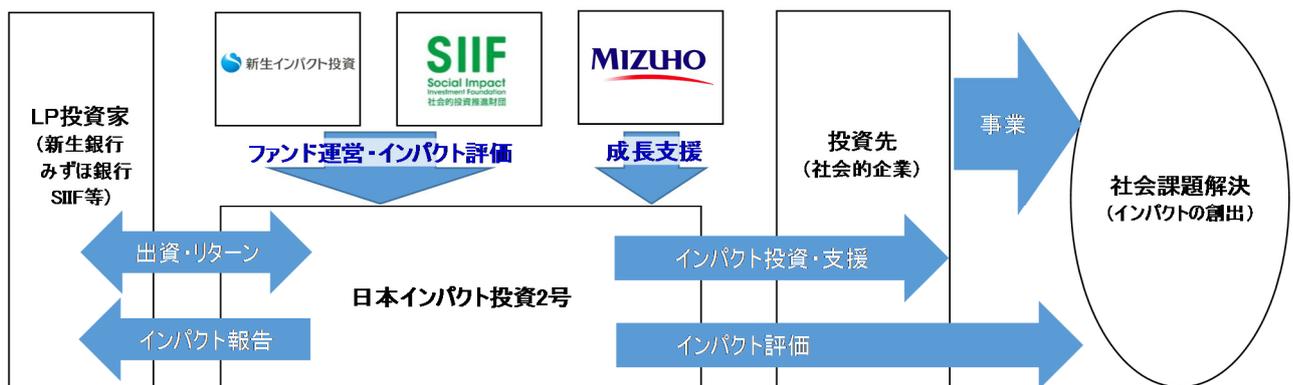
本ファンドの運営において、みずほ銀行の盤石なネットワークや運営するイノベーション支援機能「M's Salon」を通じた金融サービス提供力やコンサルティング力、新生企業投資の共同ファンド運営ノウハウ、および「日本インパクト投資1号ファンド（通称、「子育て支援ファンド」）におけるエクイティによるインパクト投資の実践経験、SIIFのインパクト投資市場の開拓実績およびインパクト評価ノウハウなどを持ち寄り、緊密に連携しながら共同運営することで、投資先事業者の成長支援や社会的インパクトの拡大を目指します。

本ファンドでは、持続可能な社会に向けて、「働く人」を中心に据え、子育てや介護等の様々なライフイベントを経ながらも、あらゆる人々が働き続けられる環境づくりに資する企業、次世代の人材育成に寄与する教育・保育サービスを提供する企業、育児と介護の両立支援事業を営む企業等の「子育て・介護・新しい働き方関連事業」を投資対象とし、アーリーからレイターステージの企業に1件あたり1~5億円程度の規模で投資します。経済的なリターンと社会的なリターンの両立を目指すインパクト投資ファンドとして、引き続き投資家や事業会社の皆さま、有識者とのパートナーシップを構築し、投資を通じた社会課題の解決に貢献していきます。

〈みずほ〉は、SIIF 等との連携により SIB を中心にインパクト投資の創出に関わってきました。今後も、5 年経営計画の基本方針「オープン&コネクト」のもと、イノベーションによる社会課題の解決と経済成長の両立実現に向け取り組みを加速させていきます。社会課題の解決に取り組むソーシャルイノベーターを発掘・育成し、課題解決に必要な支援や資金を呼び込み、そこから生じる社会的な利益を資金提供者に還元していくエコシステムの構築を積極的に推進します。

注)「インパクト投資」とは、社会課題の解決に資する企業に対する投資を行うことを通して、経済的リターンと社会的リターンの両立を目指す投資を指します。

【取り組みイメージ】



【本ファンドの概要】

- 名 称 : 日本インパクト投資 2 号投資事業有限責任組合
- 設 立 日 : 2019 年 6 月 28 日
- ファンド規模 : 22 億円 (ファーストクローズ時)
- 出 資 者 : GP (無限責任組合員) 出資 : 日本インパクト投資 2 号有限責任事業組合
LP (有限責任組合員) 出資 : 株式会社みずほ銀行、株式会社新生銀行、
一般財団法人社会的投資推進財団ほか
- 期 間 : 投資期間 5 年、組合期間 10 年
- 投資対象 : 子育て・介護・新しい働き方関連事業を営むアーリーからレイター
ステージの企業

以 上